

212

マ

繪入畫單子十本

發

大
頭書

男女通用

版元



多賀城

去京一千五百里

去蝦夷國一百九里

去常陸國四百里

去下野國三百里

去駢鞠國三千里

此城神龜元年歲次甲子

按察使兼鎮守府將軍

從四位上勲四等大野朝臣

東人之所置也

天平寶字六年歲次壬寅

參議東海東山萬度使

從四位上仁部省卿兼按

察使鎮守府將軍藤原

惠美朝臣朝瑞修造也

天平寶字六年十二月一日



中太内右方大機政
御納太大大改
言言言白

百官名

あああああ
東南西と
八八八八八
黒黒黒黒
入入入入入
いいいいい
乃乃乃乃乃
中中中中中
ののののの

柳柳柳柳柳
古古古古古
木木木木木
ももももも
枝枝枝枝枝
葉葉葉葉葉
一ののののの
てん洞窟



右左拂典主乘は勤かあた
辟け兵吾
了馬祁薬殿男番由清

左大久内瀬来大木大室
清東の舎の火の舎
門助人助人助人助人

抱るえ児孫

波小翁高あま
重二市にゆき

侍乃中太右左だを
太主修造内西威因集

酒近監將將近京
宿水理渴宿詠人庫

也也もりぬ
四ニ子かか
内海子禮済
内理牛郎蛇
内也辱凡

也也もりぬ
四ニ子かか
内海子禮済
内理牛郎蛇
内也辱凡

内大臣宮無刑太治民式漢中主外新主義監

義學通書内近郊義郊部正都工化主賤人物

枝とれ姫
娘の生れと純
母と娘が出来
乃玉川の神の石

おれも山と
奇とすよてを
のむ山と
葉くぬと
墓と

もじけと殊
まれあいとも

寺とちりて天

のも山と參と

葉と羽とほ

枝とれ姫
翠の生れと純
よそ皆かくは
と蝶一野面
多モ川畔の石

主布先待雅總全檜
終正使鐵樂聲者守
太太太游事勦典主
進監使戒戒加貢廐計

五珠狀共武
躍而起而疾風
比小多とか
多幸吉多の
鳴鶯

の羽神 わく神
箭射ふ地
文治之年泉の
古序の後進記

東百官名

左右方申門内記中守馬内門中申門
浪瀬右申方左申右申浪瀬右申方左申

治

右左岩小右龙求丹加矣經波充
平平角宿宿下馬子馬門毛

建主萬阿之
十二世のじ
玉壁空に萬
山家して入
廣海湖乃
山

居深師の別室
の源小石
端坐ちくお摸
ち阿移ノ乃乃
云

右梅萬物の数失一音難丹唱

集

引出不猶其写伸源學門主玄依

不山もすら瀬
伊達政宗正
奥
十七堂
仙霞山
海岩詩光
杉新とも
美錦收月室
松の緑こまやう
に枝葉沙風

宇都宮平洋小太夫自男同要城

不面

御殿門扇印化行門袋也馬人御

不山もすら瀬
伊達政宗正
奥
十七堂
仙霞山
海岩詩光
杉新とも
美錦收月室
松の緑こまやう
に枝葉沙風

刑手

拉參主遠拂拂底彈游法其名喜

津間洞

文鐵文志喜一神懷首同家信玉

津間洞

庫居内摩子多藝馬體書記舊遺

宮殿絲竹牛池極審船記於本内

之
いはと久
のひ
みの
あせまき
かく
大山モ
のひ
大山モ
のひ
大山モ
のひ
大山モ

吹燒く石出
のひ
其
乳父
宵五
て
矣人の
そ

小山源助
之のくの登
を助助路西左
官名残

水情仲直被生達
隼織紹四シテ方
大助

江家消息往來
緒圓書狀指ミサニ同
文政四年己亥月再板

馬賛
森屋治兵衛

地本問屋



